



## “サラリーマン帝王学のすすめ”

SAM広島支部長

㈱ロジタント

代表取締役 吉田 祐 起

※※ ※※ ※※ ※※ ※※

私はマヴァリックの経営コンサルタントとして各地に多く点在するクライアント企業の営業所を巡回して社員研修の仕事をしています。その一方、わが国トラック運送業界最大の規制緩和「最低保有台数規制の撤廃（別名：個人トラック制度の容認）」のオピニオンリーダー的活動を執筆や講演で展開しています。そのような活動の中で必然的に到達したのが、標題ヨシダオリジナルのキーワードです。そこに至るプロセスを手短かに記してみます。

トラックドライバーの安全教育の原点を私は、skillでなく、willに求めています。事故を起こさない！という強い意志の実践には、人間教育・社会人教育が運転技術を中心にしたハウツーものに勝ると確信しています。加えて、1千万円を超える高額トラックを一人のドライバーの良識と両手両足に委ねることから、事故防止への動機づけをドライバーの「個人事業者の職業観」の構築に求めています。これは将来の個人トラック時代到来に備えた「勝ち組みトラックドライバー教育戦略」でもあると確信し、企業労使を対象とした独自の教育提言であると自負しています。

昨今のデフレ経済で「雇用形態の変革」が顕著です。正社員に代わって企業がこぞ採用し始めた派遣・契約・パート・請負制など「非正社員」へのシフトです。正社員と非正社員の割合は次第に接近して、交差逆転する兆しさ見え見えます。

欧米並みの「インデペンデント・コントラクター（独立請負業者）」の台頭を最近の日本経済新聞が報じていますが、これなどは雇用形態変革から一歩踏み込んだものです。ちなみに、この「インデペンデント・コントラクター」は前出個人トラック（オーナー・オペレーター）の別名でもあります。

一方、日本（人）の「開業率と廃業率（非一次産業）」は、1986年を分岐点に廃業率が開業率を大きく引き離してその差が拡大の一途を辿っています。つまり、このままでは日本の職場がだんだんと減ってしまうという状態です。国内産業空洞化とダブって深刻な状態です。

ひるがえって、日本人サラリーマンの閉塞感が否めません。自殺者が3万人を突破しています。何とも痛ましいことですが、自殺未遂者を含めると10万人にもなると厚生労働省が報じています。終身雇用制や年功序列給の職場環境にどっぷりと浸かり、自律心や個の確立が疎かになっていたツケが回ってきた、と言ったら酷でしょうか？

そんな折、共感を得た言葉に出くわしました。法政大学客員教授の西山昭彦さんが週刊誌で主張されていた「脱サラリーマン思考のすすめ」がそれです。もう一つは日本経済新聞が全面で大きく報じた「自営業型社員」の成功例です。両者共通の主張は、これからのサラリーマンは「個人事業者になったつもりで働かなくてはならない」ということです。

考えてみますと、起業するセクトは圧倒的にサラリーマン諸氏であるはず。脱サラ族はその典型です。脱サラする勇気は無いとしても、個人事業者になったつもりで働かなくてはサラリーマン人生も全うせない時代です。とすれば、サラリーマン諸氏もここは一番、思い切って個人事業者（経営者）になることを想定もしくは、その心掛けで仕事をするのが求められていると思います。そのためには応分のそれに必要な「帝王学」を平素から身に付けることが肝要だ、と発想したので

(2002年4月5日記)